



「マジックマン」が勝利へエスコート エンブロイダリー

春の雨に濡れた桜をバックに「マジックマン」が前年に続く勝利。史上7人目となる桜花賞連覇を達成した。

牝馬クラシック第一弾はさまざまな路線から有力馬が集まり、混戦模様の一戦となった。阪神ジュベナイルフィリーズ以来の実戦となる2歳女王アルマヴェローチェを抑えて1番人気に推されたのは、フェアリーSを3馬身差、レースレコードで制して2戦2勝としたエリカエクスプレス。3番人気は、こちらもクイーンCでレースレコードを記録し、2馬身半差で完勝したエンブロイダリーとなった。

レースは好スタートから先手を取ったエリカエクスプレスの逃げで進んだ。1,000m通過は58秒6と、稍重馬場を考えれば速い流れ。直線、馬場の悪いインを避けるように真ん中に持ち出されたエリカエクスプレスに、外からアルマヴェローチェとエンブロイダリーが襲いかかる。2頭はともに中団を進んできたが、スムーズに外に出されたアルマヴェローチェに対し、エンブロイダリーは道中は馬群の中を追走。進路が開いたのは直線、残り200mの手前で、そこからアルマヴェローチェと馬体を併せての一騎打ちに。最後はエンブロイダリーがクビ差、前に出てゴールを駆け抜けた。

短期免許で騎乗する鞍上のジョアン・モレイラ騎手は、前年の桜花賞もステレンボッシュで優勝しており、史上7人目となる桜花賞連覇を達成した。森一誠調教師は開業2年目で、これが管理馬のJRA・GI初出走。レース前は稍重馬場への適性を心配していたと明かし、「騎手がうまくエスコートしてくれました」と胸を撫で下ろすとともに記念すべきGI初制覇を喜んだ。

エンブロイダリーの父は、新種牡馬のアドマイヤマーズ。フレッシュな血統とフレッシュな調教師が、まさに「マジックマン」の異名に相応しい名手の手綱捌きによって、桜の栄冠を掴んでみせた。

第85回桜花賞 (GI)

4/13 阪神競馬場 1,600m(芝・右・外) 雨・稍重 18頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	エンブロイダリー	牝	3	55	J.モレイラ	森 一誠	1:33.1	③	⑨⑩
2	アルマヴェローチェ	牝	3	55	岩田 望来	上村 洋行	クビ	②	⑪⑫
3	リンクステップ	牝	3	55	M.デムーロ	西村 真幸	2 1/2	④	⑬⑭
4	マビュース	牝	3	55	田辺 裕信	和田 勇介	2 1/2	⑨	⑫⑬
5	エリカエクスプレス	牝	3	55	戸崎 圭太	杉山 晴紀	1 1/2	①	①①

エンブロイダリー
栄光の蹄跡

7

アドマイヤマーズ 108 M
エンブロイダリー
ロッチンマイヤー(クロフネ)
2022.2.1 生 安平・ノーザンファーム



牝3
鹿
55
J.モレイラ
1983.9.26生
南シルクレーシング
森 一誠(美浦)

2025.2.15 東京
デューククイーンCGⅢ
14ト3人 1(108)
55⁺。C.ルメール
芝1600良 1:32.2

2024.11.16 東京
1勝 クラス
10ト1人 1(—)
55⁺。C.ルメール
芝1400良 1:22.7

2024.9.29 中山
サフラン賞 1勝クラス
9ト1人 5(—)
55⁺。C.ルメール
芝1600良 1:35.3